巻頭言

草刈機抵抗性セイタカアワダチソウ

（公財）日本植物調節剤研究協会　評議員
（株）エス・ディー・エス バイオテック　**元吉政俊**
執行役員技術開発部長

10年ほど前，圃場管理に出かけた時のお話です。春の田植え前から秋の稲刈りまでは試験圃場の水田周りに生える草管理のため夕方5時ころになると決まって草刈り機を担いで圃場に出かけていました。もともと蛇が大嫌いなので畔や法面に草が伸びていると蛇の発見が遅れるため怖くて歩けないことを少しでも解消したいことがその理由の半分以上を占めていました。ブンブン回る回転盤。若いころから機械いじりが好きだったこともありエンジン音とアクセル感覚，草刈り機の円盤の回転具合，草の飛び方と腰のまわし方などが一連の感性の中で一体化していました。この時間はある意味，嫌な事務仕事のことを忘れられるとっておきの時間でもありました。日が暮れて自分が通ってきた後ろを振り返るとすっかり夕暮れの明かりの中に綺麗な畔と法面から青草の匂いが心地よく香ってきました。「今日も良く働いたなあ～」と息を吐きながら歩き出した時，ふと気付くと水田の水尻口の中に花を付けようとしているセイタカアワダチソウが数本残っていることに気がつきました。再びエンジンを掛け，刈りはらおうとしますが一本だけどうしても刈れません。歯の円弧とコンクリート製の水尻口の大きさの関係でどうしても歯が入らないのです。諦めて一本残したままその日は終了としました。数日たって同じ現場を見ると草刈り機ではどうしても刈れなかったセイタカアワダチソウが少し曲がりながら黄色い花を付けていました。手で抜いてしまえばそれまでですが何故か親しみを感じそのままにしておきました。この一本のセイタカアワダチソウが次の代まで同じような場所で生き延び，来年も草刈り機から逃れられるかどうかは遺伝子の世代継承とは全く関係ないですが，同じような場所で生きていけるという意味では可能性がゼロではないのかもしれません。

一方，日本国内のみならず世界中で多くの薬剤低感受性雑草が問題となっておりますがその草種と面積は未だ広がりをみせています。除草剤の分類からみれば2,4PA抵抗性雑草が発見されて以来，ALS I，ACCace I，Triazines，Dinitro anilinesなど重要な薬剤に対する抵抗性雑草の報告が続いていますし，その評価方法が改善されたことも受けて，抵抗性雑草の種類やバイオタイプの報告数も多いように感じます。また実用場面を想定した対策として作用性の異なる薬剤の使用，混合剤開発および新規作用性農薬の探索が精力的に行われていることも多くの報告から感じ取ることが出来ます。

槍を鍬に持ち替えた人類にとって雑草との戦いは農耕の歴史でもありどれだけの労力を雑草防除につぎ込んできたことでしょう。その手法は資材的防除，農機具の改良，化学農薬の利用，生物学的差異を応用した耕種的防除そしてGM作物の創製などその方法は時代を追うごとに高度化してきました。これら人間が求める効率的な作物生産意欲は今後も限りなく続いていくものと思います。そしてその分野に従事する植物を愛する人もそうでない人もお互いの創意工夫を尊重しながら試行錯誤を繰り返し，その中から解決策を進化させていけることを期待しております。私もその中の一員として参加できることに感謝しております。ところであのセイタカアワダチソウは今どんな世代交代をしているのかな～？人知れず隠れるようにして生き延びているのか，生息範囲を広げて遺伝子を謳歌しているのか・・。